

まちの「今」をお届けします



徘徊する認知症高齢者役の女性(左)に、ゆっくりと近づいて声をかける参加者

認知症になっても安心して暮らせるまちづくりを目指して 市内初の「見守り声かけ訓練」を実施

認知症の人にやさしいまちづくりの実現に向けて、11月23日、本山校区の南松浜地区で「見守り声かけ訓練」を市内で初めて実施しました。この訓練は、検索依頼書に書かれた認知症高齢者の特徴をもとに、徘徊する高齢者を探しながら歩き、発見から声かけ、通報までを疑似体験する訓練です。参加者は、南松浜自治会員や民生委員などの計28人。認知症高齢者3人が行方不明になっているという想定で、4班に分かれて区内を探索しました。

市職員から声かけのポイントとして「驚かせない」「急がせない」「自尊心を傷つけない」という3点が伝えられ、参加者は認知症高齢者を発見するとゆっくりと近づき、笑顔で「こんにちは。いい天気ですね。何かお困りですか?」とやさしく声をかけていました。

訓練後の本山公民館で行われた意見交換会では、参加者から「声かけのタイミングや引き留め方が難しい」「みんなで取り囲んでしまったのが反省点」との声が聞かれました。徘徊する高齢者役からは「声かけは一人で来た方がいい。取り囲むと逃げたくなる。笑顔で声をかけてくれたのはとても良かった」とアドバイス。

市では今後も、各地域での声かけ訓練や認知症サポーター養成講座への受講、認知症カフェへの来場、メールで行方不明者の情報を配信する「見守りネットさんようおのだ」への登録を呼びかけ、認知症の人にやさしいまちづくりの実現を目指していきます。

☎ 地域包括支援センター
(高齢福祉課内 ☎ 82-1149)